

本時のねらい

お礼の手紙の下書きについて友だちとアドバイスをし合うことで、自分の文章を推敲する力を付ける。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・単元の進め方をシンキングツールの機能を活用して整理する。
- ・タブレット上で下書きを作成することで、クラス内で共有しやすくなる。
- ・児童間で通信することで、様々な相手に添削した内容が伝えやすくなる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・シンキングツール

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の流れを確認する。 ・本時のめあてを確認する。 「お礼の手紙を考えよう」 ・下書きの提出の仕方や、アドバイスをし合うペアのつくり方を確認する。 ・アドバイスの交流方法を確認する。 <p style="text-align: right;">【写真1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の流れはロイロノート内のシンキングツールを使って掲示する。 (単元の初めに、児童と単元計画を練る際、ロイロノート内のシンキングツールを活用することで、児童の考えを取り入れた内容の更新が容易に行えたり、そのまま児童に配付できたりもする。)
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・下書きを書く。 ・書き終わった児童から、黒板のボードを利用してアドバイスの相手を見つける。 ・お互いが提出した下書きを添削し、ロイロノートで送り合う。 ・ペアの相手が添削してくれた内容をもとに、推敲する。 <p style="text-align: right;">【写真2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスしやすいように、手紙を書く時のポイントをレベル別に提示する。 例) レベル1 文末の書き方がそろっているか。 レベル2 主語と述語、文と文のつながりは正しいか。等 ・下書きするテンプレートには、あらかじめ添削スペースを作っておく。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにふりかえりを書く。 ・友だちが提出した下書きと自分の下書きを見て、気づいたことなどを書く。 <p style="text-align: right;">【写真3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上で、提出された児童の下書きを自由に読めるようにする。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】手紙の書き方レベルを確認している場面



【写真2】ペアの相手とアドバイスを伝え合う場面



【写真3】送り合ったアドバイスや友だちの下書きを見ながら振り返る場面

児童生徒の反応や変容

- ・児童一人ひとりに応じたレベルのアドバイスをし合うことができた。友だちからのアドバイスにより、自分の改善点を見出すことができた。
- ・シンキングツールや黒板を見ながら、自分がすべきことを考えて行動できた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・シンキングツールを使って、進め方を確認させることで、考え方が整理でき、主体的な学習活動となった。
- ・タブレットを使ってアドバイスすることで、多くの友だちから多面的なアドバイスをもらうことができ、アドバイスを見比べて自分の考えに合ったものや、より良いものを選択することができる。